

INTERNATIONAL ERIC NEWSLETTER

No.4

DECEMBER 1990

エリック ニュースレター

国際理解教育・資料情報センター

International Education Resource & Information Center

特集：「わたしたちと世界」 をどう教えるか

事例1：

わたしにとって大事なつながりはどれ？

ねらい：・自分と世界の結びつきを見直す。

・ものの見方は人によって異なることに気づく。

準備するもの：紙と鉛筆！

展開：

- 各自で、自分の生活と世界との結びつきを、少なくとも10通り以上考えて書き出す。
- それぞれの事項が自分個人にとってどの程度重要なのかを考え、「非常に重要」「どちらとも言えない」「たいして重要でない」の3種類に分類してもらう。
- これらの世界との結びつきが自分の生活中どのように影響しているかについて、短い作文を書いてもらう。

応用：

- 他の事例と組み合わせ、授業の前に、生活と世界の結びつきを10通りあげて一覧表にしてもいい、とつておく。授業の後で、もう一度、一覧表を作ってもらう。最初の一覧表を生徒たちに返し、二つを比べて、「自分の生活にとって世界はどれほど重要か、について学んだこと」という主題で作文を書いてもらう。

- 各自が、親など、おとな一人に、そのひとの生活と世界の結びつきについて10通りのあり方を一覧表にしてもらい、ひとつひとつがそのひとにとってどの程度重要かを示してもらう。おとなの一覧表と自分たちの一覧表を比較する。このおとなの考えた結びつきは、自分たちのものと似ているか、異なるか。このおとなが重要と考えるものは、自分たちと同じか、違うか。これはどのように説明できるか。
- 自分たちの考えた結びつきは、他の国の人々の個人生活や社会にどのような影響を与えているか、についてよく考える。一覧表に出てきた結びつきが、世界規模の活動に影響を及ぼす可能性はあるか。あるとすればどのような影響か。(例 外国人学生を泊める、外国の災害援助のため募金活動をする、外国旅行の計画を立てる、外国製品を購入する、など。)

出典：INDIANA IN THE WORLD, 1981 (アメリカ), 6ページ

目次

事例1：わたしにとって大事なつながりはどれ？	1
事例2：世界は狭い	2
事例3：地球bingo！	3
事例4：教室の中のもののふるさと	4
事例5：ドキュメンタリーを書こう	5
事例6：インタビューしてみよう	6
事例7：地元の新聞の中の世界	8
事例8：わたしたちの町の民族料理レストラン	9
事例9：地域の産業も世界経済の一部	10
ひとひねり・留学生に話を聞くとき	7
ひとひねり・映画やビデオを利用するとき	10
情報コーナー	11

**事例2：****プリント「影響はどのくらい？」****世界は狭い**

- ねらい：
 • 地球規模の相互依存という概念を明確にする。
 • 地球規模の相互依存の実体を把握するための着眼点を明らかにする。

準備するもの：プリント「影響はどのくらい？」

展開：

- 1 プリントを配り、各自でそれぞれの項目が自分自身や地域（市町村、都道府県）全体にどの程度の影響を与えるかを考え、書き込んでもらう。
- 2 プリントをもとにクラスで話し合い、各項目について統一見解を出す。（最初の項目については黒板に1から5までの数字を書いて、その下に手を上げた生徒の数を書き込むと、それ以降は手をあげてもらうだけでクラス全体のだいたいの傾向がわかる。）

留意点：

- 活発な発言を促すには、以下の点について簡単な質問をするとよい。
- 長期的な影響・短期的な影響（例えば、石油の値上がりは地域経済にも生徒たちの家庭の車の運転や暖房にも長期的な影響を与える。インドが水爆を開発すれば、核戦争の危機が高まり、地球の平和に長期的な影響を与える。これに対し、ブラジルで霜の時期が広範囲でいつもより長く続いても、自分たちの地域のコーヒーの価格に与える影響は比較的短期のものである。）
 - 直接の影響・間接の影響（OPEC価格の上昇は、個々の市民に対しても国家経済に対しても即座に直接の影響を与える。カナダドルの価値の下降は、その時期にたまたまカナダにでかける近所の人に対しては直接の影響がある。国内でも、それぞれの地域の事情、例えばカナダとの関係の深さなどによって、直接の影響を与えていすることが考えられる。）

下に新聞から見出しを10選んであります。それぞれの見出しについて、そのできごとが与える影響の大きさを表わすため、1から5までの数字が3行ずつ並んでいます（1は「ほとんど影響がない」、5は「たいへん大きな影響がある」）。最初の行では、できごとがあなた個人に与える影響、第2行では○○県に与える影響、第3行では国全体に与える影響の大きさを表わすと思われる数字を一つ選んで○印でかこんでください。

1 OPEC諸国が原油価格を10%上げる

わたし가受ける影響	1	2	3	4	5
この地域が受ける影響	1	2	3	4	5
日本が受ける影響	1	2	3	4	5

2 ブラジルのコーヒー園が病氣でだめになる

わたし가受ける影響	1	2	3	4	5
この地域が受ける影響	1	2	3	4	5
日本が受ける影響	1	2	3	4	5

3 カナダドルの価値がさがる

わたし가受ける影響	1	2	3	4	5
この地域が受ける影響	1	2	3	4	5
日本が受ける影響	1	2	3	4	5

4 ペルーが200海里内の漁業制限を始める

わたし가受ける影響	1	2	3	4	5
この地域が受ける影響	1	2	3	4	5
日本が受ける影響	1	2	3	4	5

5 ソ連とソ連の同盟諸国が1984年のオリンピックをボイコットする
(以下、同じ)

- 6 全ての学校で2年間の外国語学習が義務付けられる
- 7 ケベック州で新しい油田が発見される
- 8 リビアが水素爆弾の開発成功を発表する
- 9 日本が自動車輸出の制限に同意する
- 10 キューバからの難民が増える



応用：

この地域と世界の相互依存はどの程度か、クラス全体できめてもらう。1から5までの数字（1が最もうすい、5が最も密接）で表わすのもよい。

出典：VERMONT AND THE WORLD(アメリカ),3ページ

〔現場から一言〕梅村先生、高校地理

「この二つの事例は、授業の前と後でやってみて結果を比較すると、授業の成果がかなりはっきり評価できるでしょうね。自分の授業ではとくにこの事例2を、質問をいろいろ変えてやってみたいですね。」(談)

事例3：

地球bingo！

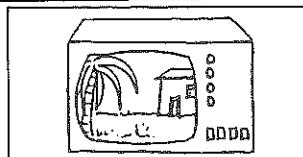
ねらい：世界の相互依存関係がどのような形でわたしたちの日々の生活に影響を与えているか、わたしたちひとりひとりがどのような形で地球という一つの共同体と結びついているかに気づく。

準備するもの：プリント「地球bingo！」一人1枚

speaks a second language 11	has ridden in three cars manufactured overseas 12	has visited one other nation 13	has received a letter from overseas 14	can name five products in their home that were made outside Australia 15
family owns a Japanese-made TV or stereo 21	has eaten in a Chinese restaurant 22	is wearing an item of clothing made outside Australia 23	has a parent born outside Australia 24	has made a phone call to another country within the last year 25
is wearing an overseas-made watch, piece of jewellery or a pair of shoes 31	can name four international airlines 32	FREE Put your name here ----- 33	has eaten in an Italian restaurant 34	has drunk a product grown in India or Sri Lanka 35
has relatives in another country 41	has watched an overseas made TV program in the last 24 hours 42	has eaten Lebanese food 43	owns an overseas made tennis racket, football, netball, softball, cricket bat or bicycle? 44	has eaten Greek or Lebanese restaurant food 45
can name two products from Japan 51	can name six continents 51	has a relative living overseas 52	can name two overseas rock groups 53	has read and can give the name of a book by an overseas author. 54

プリント【地球bingo！】

- 11 身につけている衣類に外国製のものがありますか？
- 12 外国に住む親戚や友だちとの間で、手紙を書いたりもらったりしたことがありますか？
- 13 外国語が話せるか、聞いてわかるかしますか？
- 14 インドかスリランカでできた飲みものを飲んだことがありますか？
- 15 海外のロックバンドの名前が二つ言えますか？
- 21 家にある外国製の品物の名前を五つ言えますか？
- 22 自分か家族が外国に行ったことがありますか？
- 23 家に外国製の電気製品がありますか？
- 24 英語以外の外国語を耳にしたことありますか？
- 25 外国の料理を専門にしているレストランで食事をしたことがありますか？
- 31 これまでの24時間内に外国が作ったテレビ番組を観たことがありますか？
- 32 外国製のおもちゃを持っていますか？
- 33 〈自由欄 自分の名前を書く〉
- 34 自分か家族が外国にも会員がいる、または外国での活動がある組織に入っていますか（ライオンズ/ロータリークラブ、YMCA、ボーイ/ガールスカウトなど）？
- 35 朝ごはんに外国でとれたものを食べましたか？
- 41 外国の航空会社の名前が4つ言えますか？
- 42 外国に行った経験、または住んだ経験がある人と話したことがありますか？
- 43 海外の人が書いた本を読んだことがありますか、書名が言えますか？
- 44 外国にいる人と電話で話したことがありますか？
- 45 外国製の運動用品を持っていますか？
- 51 24時間以内に外国産のものを食べるか飲むかしましたか？
- 52 外国から来た人が家に泊ったこと、または外国から来た人に最近会ったことがありますか？
- 53 アジアの人の名前が3つ言えますか？
- 54 外国の新聞や雑誌を見たことがありますか？
- 55 母国語以外のことばのラジオプログラムを聞くことがありますか？

**展開：**

- 1 こどもたちにゲームの進め方を説明する。ゲームは五目並べの要領で行う。
こどもたちは、枠の中の質問に「はい」と答えられる同級生をさがす。見つかったら、枠の中に名前を書いてもらう。一列にならんだ五つの枠目が異なる五人の同級生の名前でうまったら「bingo」のできあがりである（縦、横、斜めのいずれの方向でもよい）。
- 2 bingoができた生徒は「bingo！」と大きな声で言う。のこりのこどもたちは席に戻る。完成したbingoに名前を書き込まれたこどもは、順々に、自分が「はい」と答えた事情をみんなの前で説明する。
- 3 自分たちと世界との結びつきについてどんなことがわかったか、ほかにはどのようなものが考えられるか、について、みんなで話し合う。

留意点：

プリントを回収すれば、クラスのこどもたちが世界とのような結びつきや体験をもっているかがわかるので、教師がその後の授業の発展を考えたり、クラスでの話し合いを刺激するのにはどうしたらいいかを考えたりするのに便利である。

参考：

こどもたちの反応として、以下のような意見が出てくることが考えられる。

わたしたちが世界とつながっているのは、a) 外国語を聞いたり、話したりする場合、b) 外国で暮らしたことがあったり、ともだちや親戚が外国に住んでいたことがある場合、c) 今でも外国に親戚が住んでいる場合、d) 外国に旅行にいったり、外国から来た旅行者に会ったりする場合、e) 外国料理のレストランに食事に行く場合、f) 外国産の食べものを食べる場合、g) 外国製の衣類を着ている場合、h) 外国製の乗物に乗る場合、i) 外国映画を観たり、外国製のレコードを聴いたりする場合、j) 外国製の品物（腕時計、テレビ、ラジオ、コンピューターなど）を使う場合

「こういったつながりがある、というはどういうことだと思いますか。わたしたちは、他の国々を、いろいろ

ろなことで頼りにしています。これは「相互依存」と呼ばれています。」

出典：LEARNING FOR A FAIRER FUTURE(オーストラリア),
30ページ及び VERMONT AND THE WORLD, 2ページ

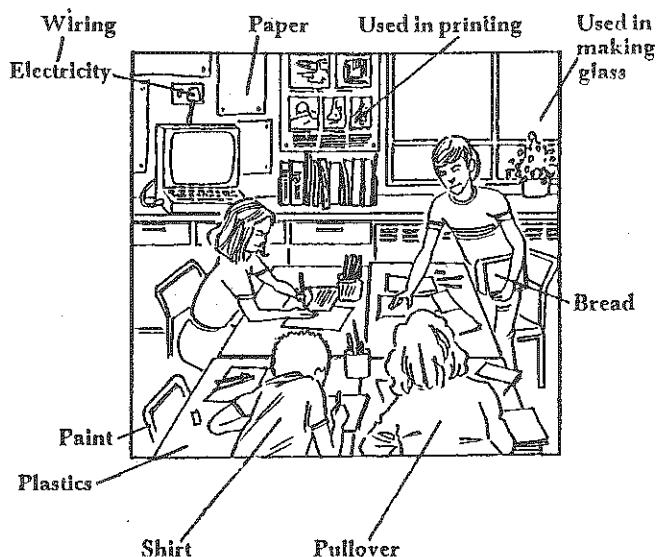
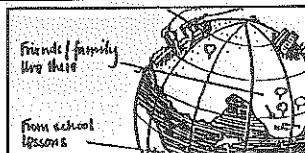
事例4：**教室の中のもののふるさと**

ねらい：ものをつくるひと（生産者）とつかうひと（消費者）とのやりとりは世界中に広がっており、自分たちの教室もその一部である、ということを示す。地球上の人々がおたがいにささえあって生きている現実が、ごく身近なところにある。

準備するもの：砂糖、小麦粉、綿、羊毛、石油、鉛、木材などを少量ずつ用意する（全部でなくよい）。また、教室に給食用のパンを持ってきておく。

展開：

- 1 用意したものをひとつひとつこどもたちに見せ、これは何か、どんなものに利用されているかなど、質問しながら、ものの名を黒板に書く（図を参照のこと）。
- 2 こどもたちは小グループに分れる。各グループに、用意したものを1種類とふだとして利用するわら半紙数枚を渡す。グループごとに、渡されたものの名を紙に書き、教室の中で利用されている製品を探して、できたふだをその上にはる。同じような製品がいくつもある場合、たとえばセーターの場合には、中の一つに「毛糸のセーター〇枚」と書いた紙をはる。
- 3 グループごとに、これらの原材料が地球上のどの地域で生産されたかを調べる。おもな産出国名または地域名を二つ三つふだに書く。
- 4 他のグループがはったふだをみんなで見て回り、結果をまとめて1枚の大きな地図に書き込む。
- 5 結果をみんなで話し合う。

**留意点：**

ものの種類によって、教師の助言が必要なグループもでてくる。何に利用されているかを最初に話し合っておくとよい。

教師が参考資料を示してもよいが、こどもたち自身が年鑑などで調べることが望ましい。正しい国名より、こどもたちが、自分たちの教室は地球のさまざまな地域から来たものでいっぱいだ、ということをいきいきと実感できることが重要である。

話し合いのヒント：

教室にこれほど多くの国からものが集まっている、という点から話し合うことができる。このようなものの流れのありかたは正しいか、公平さとは何か、といった疑問が大切である。こういった発言がこどもたちから自然に出てくればすばらしい。たとえば、この製品の生産にはどのような仕事が必要か。一国の経済がわずかな品目に依存している国はどこか。それにはどのような歴史的背景があるか。これらのものの生産や利用が環境に悪影響を与える場合、具体的にどのような被害があるか。利害の衝突がある場合、具体的にどのような状況で、どのような形で解決が図られているか、今後はどうなってゆくと思われるか。

応用：

一人が一国をテーマとして、その国の一次産品が教室に届くときにはどのような製品に姿を変えているかについて調査する。

出典：WORLD STUDIES 8-13 (イギリス), 39ページ

事例 5 :**トキュメンタリーを書こう**

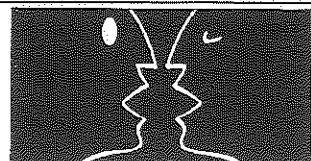
ねらい：自分たちの地域社会について、さまざまな視点のありかたを知る。偏見／先入観を考えるのに役立ち、また、外国や国際問題の将来について複数の考え方を紹介するための導入ともなる。
準備するもの：地域の写真（約20種類）を子ども3人につき一揃い。

展開：

- 1 こどもたちは3人一組になり、「わたしたちの地域」という主題で写真の中から10枚ほどを選ぶ。
- 2 組ごとに、異なる人の立場にたって、その人の視点からそれぞれの写真に短い文をつける（たとえば、外国からたった今到着した人、若い頃からこの地域に住んでいる年金暮らしのお年寄り、失業中の10代の若者、この地域を改善したいと思っている人、何も変えずにこのままにしておきたいと思っている人、芸術家、警官、この地域で育ち、よそに移り、ごく最近戻ってきた人、こどもたち自身と同じ年頃同じ立場の誰か、など）。
- 3 書き上げた文章はクラスで発表する。発表するグループは、まず自分たちの写真の並べかたのとおりに、みんなにも並べ直してもらい、写真を見ながら発表を聞いてもらう。
- 4 発表をもとに話し合う。各グループの考えた過程を聴き、どのグループの文章が最も説得力があるかについて話し合うことができる。その他、どの文章が真実に最も近いか、一つの地域とその可能性について唯一の正しい見方というものはあるか、など。

留意点：

それぞれの立場にはどのような事情が伴っているか、などについて、教師とこどもたちが充分に話し合う必要がある。時間があれば、たとえば地域の近代史や最近の



開発計画問題などについて資料を調べてから書くようにするとよい。

こどもたちにとっては、まず、文章をどう組み立てれば筋のとおったものになるかを学ぶのも必要である。書き始める前に、少なくとも、テーマとなるひとの立場や地域の歴史や特性、身の回りの環境のよい点や悪い点、美しいものや醜いもの、などについて、教師と充分に話し合い、結論を出しておくようにする。

出典：WORLD STUDIES 8-13, 52ページ

〔現場から一言〕山口先生、小学校4年

「こどもたちがどう触発されていくかが楽しみです。ものの見方が広がるとともに自分自身の発見にもつながるような気がします。写真によっては低学年からできそうです」



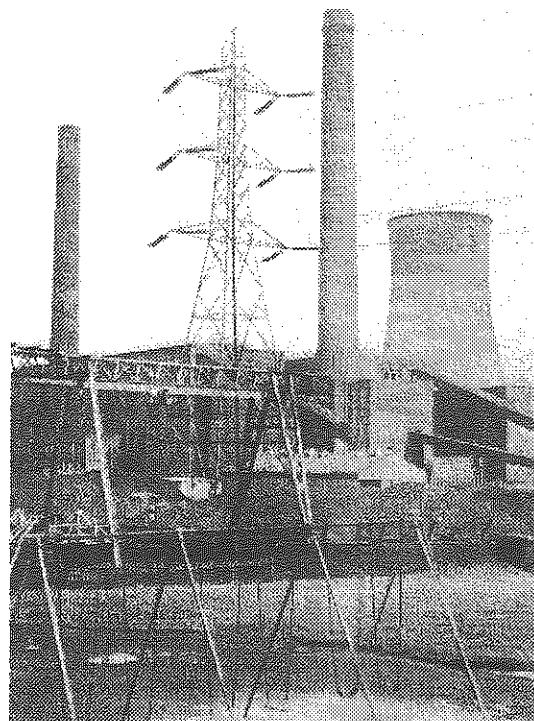
事例 6：

インタビューしてみよう

- ねらい：
 - ・地域と世界を結ぶものの一つはそこに住む人々であることに気づく。
 - ・現代世界の事件や動きを、直接体験した近所の人々の視点から見る。
 - ・地域のできごとや地域が抱える問題を、地球的観点からとらえなおす。

準備すること：

- こどもたちは、事前に話の進めかたを練習しておくほうがよい。質問する役、される役を交替で演じる方法が効果的。
- 話を聞く相手（地域住民）に連絡をとること（地方紙の記事などから時間をかけてリストアップしておく）。次のような人々の話が聽けるととてもよい。
 - ・世界的なできごと（軍事衝突、国際会議など）を直接体験したことがある人
 - ・外国で働いたことがある人





- ・世界的大事件が自分の日常生活や地域に与えた影響を覚えている人
- ・個人的な体験から偏見や差別をなくすために努力している人々（障害者、在日外国人、女性など）
- ・異なる環境（文化など）で育ち、学校や家庭のありかたや体験、遊び、歌、物語などの話ができる人
- ・障害者の共同作業所、不用品の再利用、自家発電・下水処理などに直接携わっている人

展開：

- 1 話し手は、事前の教師とのうちあわせに基づいて5～10分ほど自分の体験を語る。
- 2 こどもたちが、特にこの話し手に質問したいことをあげていく。話し手の聴いているところでクラス全体で行ってもよいし、グループに分れて3つずつ出してもらうのもよい。
- 3 2で出た質問事項を、具体的なものから理論的なものへ、順に黒板に書く。
- 4 こどもの代表と話し手の間で質疑応答を進める。時間ががあれば、話をきいた後で新しく出てきた疑問点についても答えてもらう。
- 5 話し手に全体の感想を述べてもらう。
- 6 こどもたちは、ここで学んだ大事なことを4つ書きとめる。これは後の学習や話し合いに役立つ。表にまとめて「○○さんのお話から学んだこと」などの表題で掲示するとよい。

応用：

- 小グループで街頭録音をする（街で、農家で、など）。
- 録音のうち、一つ二つをラジオ番組ふうにまとめてクラスで聴く。

出典：WORLD STUDIES 8-13, 48ページ

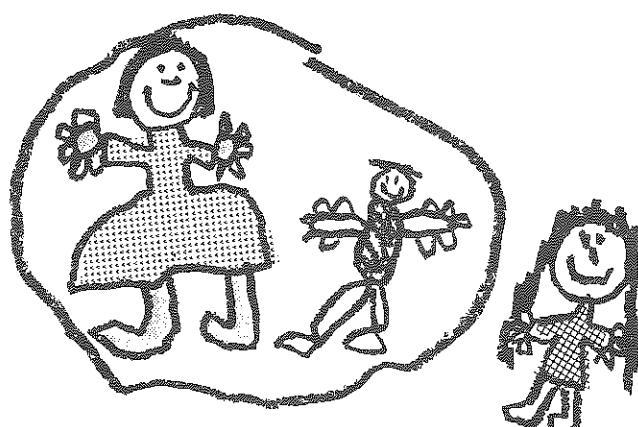
ひとひねり 留学生に話をきくとき

地元に来ている留学生を招いて話をしてもらうときは、こどもたちの心の準備がとても重要です。たとえば、もしも自分が外国のクラスのこどもたちの前で話をしなければならないとすればどんな気もちがするだろう、と聞いかけるとよいでしょう。「お客さま」がどんな気もちになっているかをわかるにはどうすればよいかをみんなで考えてみてください。前もって「お客さま」の国について話し合うのを忘れないこと。

次のような工夫で、いっそう楽しく効果的にできます。

- a 留学生に、スライドや、その他、国からもってきた品物（絵、お金、衣類、工芸品など）を見せてもらう。
- b 留学生的国のかわいい詩や物語などを読んでもらう。
- c 留学生的国のかわいい音楽のテープやレコードを持って来てもらう。
- d 留学生と生徒たちと一緒にロールプレイ、シミュレーション、具体的な事例の研究などを行ない、その国についての深い理解を得る機会とする。

出典：MASSACHUSETTS AND THE WORLD(アメリカ), 31ページ



**事例7：****地元の新聞の中の世界**

ねらい：新聞（地方紙、地方版）を利用して、自分たちの地域と世界がさまざまな形で結びついていることを確認する。

準備するもの：地方記事の切り抜き9～10種類、または地方紙／全国紙地方版をこども2人につき一部

展開：

- 1 2人一組に一揃いずつ切り抜きを配る。記事を一つずつ音読し、わからないところがないよう確かめる。年齢によっては見出しのみを利用する。
- 2 組ごとに話し合いながら、切り抜きを、自分たちの地域だけに関係するものと、他の地域（市外、国外）にも関係するものの二つに分類する。
- 3 10分ほどたったら2人組が三組ずつ集まって6人のグループをつくり、分類した結果をくらべて話し合う。
- 4 クラス全体でなぜこのように分類したかについて話し合い、「国際的」な記事はどの場所と関係があるか、みんなで大きな世界地図または地球儀を見て確認する。

留意点：

記事と外の世界の結びつきは必ずしも目に見えるものばかりではない。記事中に地名、人名、具体的な国際問題が出てればよいが、実際には見えない結びつきのほうが多いが、わかりにくい。たとえば、地域内の開発事業を手がける会社は海外に支社などがあるかもしれない。自動車の広告は、その自動車に外国産の金属や部品が使われている点で世界と結びついている。

目に見えない結びつきをこどもたちがすべて把握する必要はない。重要なのは、根拠に基づいて推測したり仮説を立てたりすることである。仮説は後で調べて確かめることができる。

応用：

- 2人に一、二部ずつ地方紙をわたす。こどもたちは、記事のうち明らかに世界と直接関係があるもの、もしかすると関係があるかもしれないものをすべて切り抜く。切り抜きを「人」「考え」「もの」の三つに分類する。新聞が全部同じである場合は、この後、先述のようにグループにまとめて検討する。
- 分類した切り抜きを、後で表にまとめたり、切り抜き帳に整理したりするとよい。
- 切り抜きを何日か続けるととても貴重な経験になる。こどもたちは、外国と関係のある記事をもとに、自分がけの「地方紙世界版」を編集することができる。
- 「遠い国のペンフレンドに手紙

1	1
2	2
4	4
7	7
9	

- 「遠い国のペンフレンドに手紙

1	1
2	2
4	4
7	7
9	

- 「遠い国のペンフレンドに手紙

1	1
2	2
4	4
7	7
9	

出典：WORLD STUDIES 8-13, 49ページ

〔現場から一言〕岸尾先生、小学校6年

「わたしも新聞は授業によく利用します。こどもたちも喜んで積極的に参加します。6年生3学期の単元『世界の中の日本』で実行してみたい授業です」（談）

Teenager Wins Prize

Mark Johnson, 18, of Australia Road, East Northampton, is off on a tour of Europe after winning a £5000 Premium Bond prize. He expects to spend several months travelling and will return in time to start a course at Northampton Polytechnic in October.

Mark's winning bond number, which reads

No choice

But Sellall's managing director said last night: "We have no choice. The competition from overseas is so strong that if we don't cut costs we shall go out of business".

At a recent board meeting it was agreed that immediate cuts

POLICE TRY OUT BRITISH BIKES

NORCHESTER POLICE are revving up for a battle against West German and Japanese motorcycle manufacturers.

The force are trying out new British-built cycles which they hope will be good enough to replace their fleet of German BMWs.

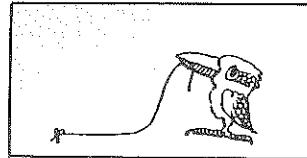
More than £10,000 made by the air display held at the Downley USAF base on Thursday day will be handed over to Odham, Shala Mount, the charity's area director, said. Every penny of this will go to help the poor help themselves.

High Flyer

More than £10,000 made by the air display held at the Downley USAF base on Thursday day will be handed over to Odham, Shala Mount, the charity's area director, said. Every penny of this will go to help the poor help themselves.

BLAZI DEST CAFE

Police which inst Carlton R Street. Firemen the fine G were able door from The ala

**事例8：****わたしたちの町の民族料理レストラン**

- ねらい：
・電話帳を利用して世界との結びつきを学ぶ。
・「食」に注目して、地域の生活と外国の関係の歴史的背景を考える

準備するもの：職業別電話帳

留意点：人口が非常に少ない地域では、近隣都市の電話帳を併用し、比較するとよい。大都市では、「学校の所在区」のように範囲を絞るとよい。

応用：

職業別電話帳を利用して、自動車、カメラ、教会、テレビ、旅行社・旅行代理店、スポーツ用品、工場、民間団体、職業団体などについて、同じ作業を行う。

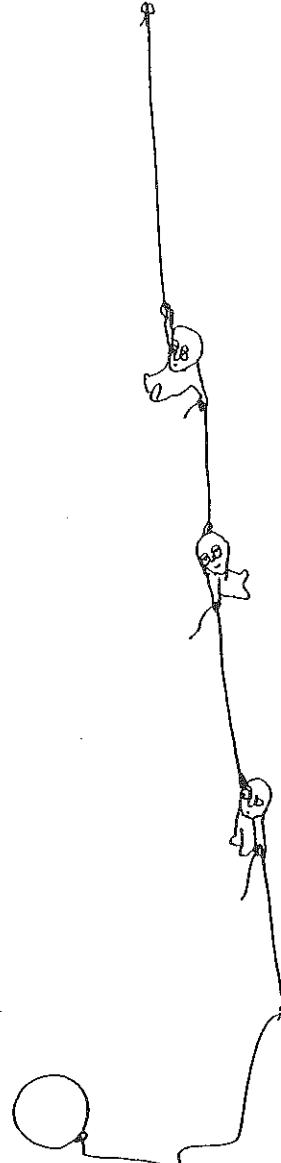
出典：INDIANA IN THE WORLD, 1981, 14ページ

展開：

- 1 生徒たちはグループ（2～4人）ごとに職業別電話帳でレストランの項目を調べ、地域と世界との結びつきを考えるための手がかりを集め。手がかりには、都市名（たとえば『レストラン・アカブルコ』）、国名（『イタリア料理ドーロ』）、その他の地名（『地中海料理の店』）などがある。手がかりを紙に書き出し、グループごとまたはクラス全体で話し合う。
- 2 話し合いをもとに、グループで、自分たちの地域がレストランを通じて結びついている世界の地域を10箇所以上書き出し、職業別電話帳レストランの項目を分析する。
- 3 結果をクラスで発表する。国名を黒板に書き出したり、地図に印をつけたりするとよい。
- 4 電話帳で他の項目を調べ、他にも世界との結びつきが表わされている項目があるかどうかを調べる。このとき、何を基準に判断したかを書き出しておく。
- 5 結果をもとにクラスで話し合う

話し合いのヒント：

- 1 電話帳をもとに考えると、わたしたちの地域は世界のどの地域と結びつく傾向がありますか。
- 2 このような外国／民族料理のレストランが地域にある理由として考えられるものを二、三挙げてください。
- 3 これらの外国／民族料理のレストランやたべものは、あなたの生活にとってどのような意味がありますか。
- 4 このほかに、自分たちの地域を直接観察することを通して、地域と世界との結びつきについての証拠が集められるような方法を五つ考えてください。



**事例 9 :****地域の産業も世界経済の一部**

- ねらい：・地域内にも国際経済に関係する企業があることを知る。
・国際経済が地元の企業に与える影響について考える。
・国際的な企業が地元の社会に与える影響、貿易相手国に与える影響について考える。

展開：

- 1 生徒たちが何に关心があるか、地域には何があるか、に応じてすすめかたを選択する。班ごとに地元の会社を一つ選んで調べる、クラス全体で地場産業を一つ選んで研究する、地場産業ではなく、地域に支社や工場がある国際的な企業をクラス全体で研究する、など。
- 2 選んだ企業に連絡をとって、必要な情報を集める。対象企業の経済的活動に関する情報、たとえば従業員数、貿易相手国、売り上げ（国内、国外）、製品の種類、外国支店などについての知識が必要になる。
- 3 調べたことを、クラスの他の生徒がいつでも利用できるように、目で見てわかるもの（表やチャート、グラフ、ポスター、壁新聞、OHPなど）にまとめる。企業の位置や世界のどこと取り引きがあるかを世界地図上に示す、品物の絵や写真を世界地図に貼る、地域で作られた製品が、どの様な形でどの様なルートをたどって売られて行くかを地図で表わす、などがよい。
- 4 3の結果をもとにクラスで話し合う。

話し合いのヒント：

- 1 この企業が外国に製品を売ることができるのはなぜですか。売りたいと思うのはなぜですか。
- 2 この企業が、これだけ国際貿易と関わりながら、あえてこの地域にあるのはなぜだと思いますか。この会社が国際的になったのは、この地域に来る前のことですか、来てからのことですか。
- 3 この会社が、国際的な関係があるからこそ対処しなければならなかった問題として、何がありますか。

4 この会社の活動は地元の社会にどのような影響を与えてていますか。

5 これらの製品の行き先の国では、この貿易関係からどのような影響を受けていますか。

出典：INDIANA IN THE WORLD, 1981, 45ページ

ひとひねり 映画やスライドを利用するとき

外国についての映画やビデオは、話し合いひとつでいくらでも授業をふくらませることができます。観賞の後で、グループに分れて次のようなことを話し合ってみてください。

[たべもの]

- ・あなたのいちばんの好物は何ですか？
- ・グループの友だちと一緒に食べると楽しい食事の献立を立ててみてください
- ・どのように料理して、どのような形でだしますか（使う食器など）？
- ・このごちそうと映画の主人公の主食とで、似ているところはどこですか？ちがうところがありますか？それはどういうところですか？
- ちがうところがあるのはなぜでしょうか？

[住む場所]

- ・自分たちの住んでいる地域をどのように説明したらよいか、みんなで話し合って決めてください（この映画の主人公に手紙を書くつもりで）。
- ・あなたの住んでいる場所と主人公の住んでいる場所は、どういった点が大きく違っていますか？
- ・違いが生じる理由をいくつか挙げてみてください。

[しごと・あそび]

- ・あなたのしごとと主人公のしごとはどこが似ていますか？違う点にはどんなものがありますか？
- ・違いが生じる理由をいくつか考えてみてください。
- ・あなたがたの班の人たちは、自由な時間にどんなことをしていますか？
- ・主人公の楽しみかたとあなたがたの楽しみかたではどのような点が似ていますか？違う点はありますか？



[約束ごとと伝統]

- ・グループごとに、あなたがたが次の場所で守っている約束ごとを書き出してください。
- 家庭／学校／地域内のその他の場所
- ・約束ごとを決めるのは誰ですか？
 - ・場所ごとに、約束ごとの中から一つを選んで、この約束ごとはなぜあるかを考えてください。これはいい約束ごとですか？それはなぜですか？
 - ・それぞれの家庭で、友だちの間で、地域・社会で、だんだん習慣のようになってきたことがありますか？
 - ・そのうちのどれが「伝統」といえますか？それはなぜですか？
 - ・あなたの学校や地域・社会の約束ごとで、主人公にとっても身近なものはどれでしょう。

こういった話し合いでは、次のようなことについて、考えを深めることができます。

- 1 わたしたち人間はみんなちがっているけれど、みんながおなじところもある
- 2 わたしたち人間がだれでも必要としているのは、たべもの、住む場所、他の人々
- 3 わたしたち人間はだれでも共同体のひとりとしてできないと生きられない
- 4 他の共同体について学ぶことで、自分たちの共同体のことがわかるようになる
- 5 自分の共同体を理解することで、自分自身のことがわかるようになる

出典：WE ARE A COMMUNITY(カナダ), 15ページ

情報コーナー

○こんなことしてます

>「外国人労働者の存在は、日本人の国際理解を進めるか」

政経演習は、高校3年生の選択科目の一つで、今年は23人が受講しています。授業は、ディスカッション中心で、毎回4～5人のグループがテーマを決めて、資料を集めたり、問題点をまとめる方法で進めています。外国人労働者をテーマにした時は、定住難民センターのある大和市を訪ねたり、就学生が多い池袋でインタビューしたりして情報を集め、最終的には、学園祭で展示をしたり、一時間にわたって上記の設問に対する肯定派と否定派がディベート(討論)を行いました。

発信：渡部 淳

〒359 所沢市松ヶ丘2-8-10

(渡部先生には、日本の教育に対する示唆に富んだ『海外帰国生』(太郎次郎社、1990年)などの著書があります。この他の外国人労働者についての授業には、西宮市の私立高校で国際コース担当の藤原先生や、神戸市の大津先生の例があります。)

>テーマを持って修学旅行

修学旅行は、学校生活の大きなイベントの一つ。日程の中に班別行動を取り入れる

ところも増えているが、愛知教育大学付属岡崎中学の場合は、生徒がグループごとに考えたテーマにそって、生徒だけで官庁や企業、病院などを訪問し、話を聞くというもの。今年は、3年生が4、5人ずつ38の班に分れて、丸一日かけてそれぞれのテーマを追及した。テーマは、オゾン層の破壊、これから日本の電力と資源、日本に住む外国人の資格と環境、東京のごみ処理の現状、TV-CMとその効果など様々。訪問先との事前連絡の行き違いや勉強不足などで問題もないわけではないが、生徒たちは生き生きと行動し、教科書ではわからない様々なことを学び取っていた。

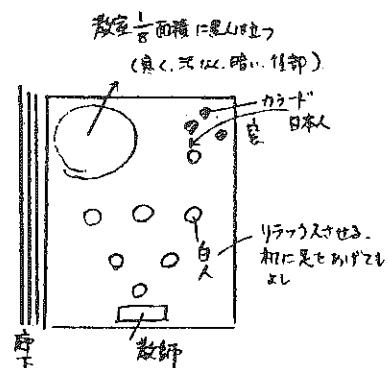
発信：近藤真澄

〒444岡崎市明大寺町栗林1 (学校)

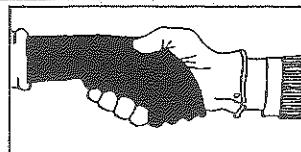
>アバルトヘイトを体験する授業

ヒントは、以前NHKで放映された「青い目、茶色い目」(NHK出版からすでに翻訳本が出ている)とActivities Using the New State of the World Atlas(米国)のシミュレーションから得ました。こちらの意図は、欲張りな傾向のある生徒を白人にして、不正選挙によって“出苦暗”大統領を当選させ、ごく少数の金持ちの「白人」がチョコレートを独占することで、多

数の黒人の憎しみ、屈辱を感じてもらうことでしたが、なんと“万寺”氏が当選する結果となってしまいました。この授業を体験した後、生徒に感想を聞いて見たところ、南アの現状を知るほど、怒りがこみあがってきたとのこと。



(授業終了時の質問票：①あなたは人種的には何でしたか。②あなたはどの候補者に投票しましたか。③その理由を書いて下さい。④集団の決定は望ましかったでしょうか。チョコレートをめぐっての分配方法についてあなたの考えを述べて下さい。⑤もし、あなた自身が大統領に立候補するとしたら、どんな公約をかけますか。それは、なぜですか。)



発信：畠山広子 〒028-33
岩手県紫波郡紫波町中島前郷147-8
(ERICが今年7～8月にかけて実施したアンケート調査の際に、最もたくさんの資料・教材を紹介してくれたのが畠山先生でした。東京だから資料・情報が集まるということではなさそうです。)

○お知らせします

>『社会科教育』1991年1月号は環境特集
新年号は、環境特集です。岸尾裕二先生(8
ページで紹介)もエビを題材にした授業を
紹介します。

発信：樋口雅子(明治図書)

〒170東京都豊島区南大塚2-39-5
岸尾先生の著書の一つに、『小学校国際理解教育の授業』(東洋館出版社、1989年)
があります。また、『社会科教育』では、前述「外国人労働者の授業」で紹介した東灘高校の大津先生が、「グローバル時代の教材開発」というタイトルで今年度一年間連載をしています。)

>『地理』1991年1月号、ERIC主催の講演会・研修会(10月)を紹介

古今書院の『地理』に、私が参加したアメリカとオーストラリアからの専門家を講師とした講演会・研修会の内容を報告します。

発信：梅村松秀

〒174東京都板橋区中台3-27-J-110

○情報さがしてます

ERICでは、ロバート・フリーマンさんとジャネット・ハントさんを招いての講演会・研修会(10月17日～21日)に統いて、「人権」教育の第一人者であるオーストラリアのラルフ・ペットマンさんが来日したのを幸いに、急きょ「思いやり教育」をテーマとした講演会・研修会(10月17日～21日)を開催しました。これをきっかけとして、何人の方々から、もっと積極的にいろいろな人や団体の動きを把握して、事前に情報を流せるようにしてほしいという問い合わせがありました。

たとえば環境教育の分野では、前号でも紹介したネイチャーゲームのジョセフ・コーネルさんやEarthEducation(地球教育)のスティーブ・ファンメイターさんの来日。他にも、グローバル教育や異文化理解教育の先生たちの来日など。

皆さんの企画・催し物の情報や、お知り合いの来日者の情報など、ぜひお知らせください。

(これを契機に彼が1986年に編集した2冊の教師用手引書をERICで翻訳することになりそうです。部分的には、ニュースレターNo.1すでに紹介していますが。)

○私はこう思うのですが…

10月17日～21日の講演会・研修会の参加者の声の中からいくつか紹介します。

>大きな馬力が得られた

小人数のグループに分れて、全員が参加できること、まさにワークショップでした。何か非常に大きな馬力を得られたような気がします。柄木に帰り、技術、考え方、情報などここで得たことを周辺の人たちに伝えします。 西原さん・柄木

>わかりやすさがいい

わかりやすさに尽する。私自身今後関心を持ってERICと接してゆきたい。新しい視点の教材をどんどん紹介していただければ幸いである。 新堀さん・東京

>教員相互の情報交換の場を

授業の具体的な方法がわかつてよかったです(教材の中身、基本概念など)。オーストラリアの方の生の声が聞けた点もよかったです。

今後もこうした研修を続けてほしい。また、教員相互の情報交換の場をたくさん設けてほしい。

石井さん・千葉

>知識注入型から考えさせる授業へ

知識注入式ではなく、考えさせる話し合わせる授業の方法にとても興味を覚えました。身近な物や新聞を素材に世界を探らせる試みは、そのまま授業に使えそうです。

菊池さん・神奈川

>小・中学校等へ出張講演はできないか

学校への出張講演、小・中・高別や教科別の教師用の研修もあれば、一層実践的になると思います。 笹田さん・北海道

○今、ERICでは…

>アメリカ・カナダ研修ツアー

日程は、来春3月25日～4月3日を予定。「見学・研修あり、観光・グルメツアーありの盛り沢山な内容で、これ以上ないっていう感じ」(今夏の豪州研修ツアー参加者の声) 問合せ・申込は、ERICへ。

>出張講演／研修承ります

ERICでは、校内研修や研究会の講師、生徒を対象とした講演会・模擬授業の講師、そして社会教育プログラムの講師も派遣しています。問合せは、ERICへ。

>「国際理解教育の目的・方法・ニーズ等に関するアンケート調査報告書」

今夏ERICニュースレターの読者を中心に行ったアンケート調査と一昨年カナダのサスカチュワーン州で行われた同様の調査を比較したものです。(送料込み¥450)